

登場人物の行動や気持ちを想像しながら読みましょう。

# ごんぎつね

新美 南吉

1

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんからきいたお話です。

むかしは、わたしたちの村のちかくの、中山というところに小さなお城があつて、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

その中山から、少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、一人ぼっちの小ぎつねで、しだのーぱいしげった森の中にあなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。はたけへ入っていもをほりちらしたり、菜種がらの、ほしてあるのへ火をつ

## 1 ごんぎつね



けたり、百しよう家のうら手につるしてあるとんがらしをむしりにとって、いたり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふりつづいたその門、ごんは、外へも出られなくてあなの中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほつとしてあなからはい出ました。空はからつと晴れていて、もずの声がきんきん、ひびいていました。

ごんは、村の小川のつつみま

15

10

5

**キーワード**  
もず  
(秋にするどい声で鳴く、スズメより少し大きく、くちばしがするどい鳥のこと。)

**キーワード**  
とんがらし  
(とうがらしのこと。)

**キーワード**  
百しよう家  
(農民の住んでいる家のこと。)

5

**キーワード**  
菜種  
(菜の花のこと。)

